講義名 スポーツマーケティング 授業形態	その他
	ブリント資料は必要に応じて配布する。参考図書は以下の書籍である(購入する必要なし)。 1、スポーツマーケティング、毎田京後継者 藤本文神・ 民間宏高者 大陸修書店)
開講期・曜日・時限 後期 月曜日 2 時限	ブリント資料は必要に応じて配布する。参考図書は以下の書籍である(換入する必要なし)。 1. スポーツマーケッイング(原田京路議書 藤本芽也・希伯宏応書 大修信書店)) 2. Sport Marketing: A Strategic Perspect us 4th ed. (Matthew Shankia Pearson Education, Inc.) 3. Sport Marketing: A Strategic Perspect us 4th ed. (Matthew Shankia Pearson Education, Inc.) 4. Strategic Sport Marketing 4th ed. (Sentard J. Mullin, Marky Stephon, Millian A. Sutton 書 Human Kinetics Pub.) 4. Strategic Sport Marketing 4th ed. (David Shibury, Hama Neestebeck, Shapino Culct, Daniel Funk, Adam Karg 著名 8U.)
担当教員 山口 志郎	4. Strategic Sport Marketing 4th ed. (David Shilbury, Hans Westerbeek, Shayne Quick, Daniel Funk, Adam Karg 着A &U)
単位数 2 履修開始年次 2 年生 ナンバリング	
LOT I JOY ME	
主題と概要	授業計画
スポーツマーケティングには、スポーツ自身の価値を高める「スポーツのマーケティング (marketing of sport) と、企業がスポーツを活用しながら商品や価値を高める「スポーツによるマーケティング (marketing through sport)」の2種類がある。本授業では、前者も理解するためにスポーツ消費者(参加者と観覧者)とスポーツイント、プロスポーツリーグ、及びチーム経営について、後者を理解するためにスポーツインと、プロスポーツリーグ、及びチーム経営について、後者を理解するためにスポッサーシップについて等え、また本保養では、スポーツを商品として投えた際のマーケティング等地・ブランについて考える。	1 イントロダクション・スポーツマーケティングとは
するためにスポンサーシップについて学ぶ、また本技業では、スポーツを商品として捉えた際のマーケディング戦略・ブランについて考える。	1. イントロダクション:スポーツマーケティングとは 2. 戦略的マーケティングブラン 3. スポーツ消費者: 砂板 4. スポーツ消費者: 砂加替 4. スポーツ消費者: 砂加替 5. スポーツ消費者: 砂水 4. マーケー・ファイング 7. フェーケー・ファイング 7. フェーケー・ファイング 9. グループワーク(ドーマ設定) 10. ブランディング 7. 権利 ビジネス 17. スポンサーション・推測 ビジネス 17. マーケティングブラン・発表 14. マーケティングブラン・発表 14. マーケティングブラン・発表 15. マーケーティングブラン・発表 15. マーケー・アングラン・発表 16. マーケー・アングラン・発表 17. マーケー・アングラン・デート・アングラン・デート・アングラン・アングー・アングラン・アングラン・アングラン・アングー・アングー・アングー・アングー・アングー・アングー・アングー・アング
	3. スパーン消費者 2 00/01世 4. スパーツ消費者 5 00/01世 4. スパーツ消費者 5 00/01世 6 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 0
	5. スルーツ/利達台: 観教台 6. マーケットセグメンデーションとターゲッティング
	7. ノルセーンョン 8. マーケティング・ミックス
	9. グループワーク (テーマ設定) 10. プランディング
	11. スポンサーシップ + 権利ビジネス 12. アンプッシュマーケティング
	13. マーケティングブラン発表 14. マーケティングブラン発表
	15. マーケティングブラン発表 +まとめ
到達目標	
この科目は、「対面型」を原則とし授業を実施する。新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン型に移行する場合は、適宜連絡を行います。オンライン型に変更または対面型と並行して実施する	
この科目は、「外間型」、原則則とし押票を実施する。新聞コロナウイルス高級症の影響により、オンライン型に参げする場合は、海道連絡を行います。オンライン型に参拝をは対策型と並行して実施する 場合は、「外間型」、授事の動画を発見し、オンラインで得整が規度できるようVoultoels画面をアンリイ、responを使りは近ららルバートを提出できるよう準度を持ち、プレゼンテーションに関しては、 になった。 で表現し、大力の中できるよう以配を行う。なお、新聞コロナウイルス高級症等の字校振発症への振発者または遺糧接触では指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、メールやZoonなどを用い個別に接題 を提示し、次方的でコミュニケーションを取りながら、野連目的巡路に向け進行する。以下、具体的な到達目根である。	
スポーツマーケティングに関する専門的な知識を習得できるようになる。 スポーツマーケティングに関する英純的な問題意識を明確にすることができるようになる。 スポーツマーケティング戦略の企画・立案力を習作できるようになる。	
スポーツマーケティング戦略の企画・立案力を習得できるようになる。	
S. U.A.S. ST.	
是出課題	
授業終了後に、その日の感想・質問・ポイント等を小レポートとして提出してもらう。また、授業内で学んだ知識や情報を基に、マーケティングブランの発表をグループで行ってもらう。	受業形態(アクティブ・ラーニング)
	ア: PBL (護題解決型学習) イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
	○ ワ:ディスカッション、ディベート ○ エ: ゲルーブワーク
	○ オ:ブレゼンテーション カ:実際、フィールドワーク
	キ:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)
	準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法	予習:音自次回の講義内容について、インターネットや新聞等を活用しながら自宅学習を実施しておくこと(2時間)。 復習:講義後に、本演奏のまとめの部分を子生に提示するため、その部分の復習を毎回自宅で行うこと(2時間)。 課題:授業の最後に、毎日ボード課題を提示し、授業の最後または次回の授業までに提近すること(2時間)。
毎回の小レボート課題は、レボート評価をした後、学生にフィードバックし、レボートの書き方やクリティカルシンキングのための考え方を個別または授業全体で解説する。	課題:授業の職後に、毎回レポート課題を提示し、授業の職後または次回の授業までに提出すること (2時間)。
GEOGRAPH STATE OF THE COLOR FLETT TO THE COLOR FLET	
	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
平価の基準	(学科共通) まずまずあ齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。「する」「みる」「ささえる」の視点を踏まえながら、スポーツをキーワードとした専門的かつ実践的な企画運営を身に付けることができる。そのため、DPに関献し得る科目である。
	でする。「みる」できえる」の視点を踏まえながら、スポーツをキーワードとした専門的かつ実践的な企画運営を身に付けることができる。そのため、中に貢献し得る科目である。
試験 50% 中常点(ハレボート、授業態度、質問等) 25% マーケティングブラン 25%	ベスが一ツマキジメントコース・ する「、みる」できる。の程点で、スポーツをキーワードとする間連事業分野、業種において企画運営に携わることができる。 伊書サービス企画運営実営では、「する、「みる、「ささえる」の現在を振り込んだイベント企画を学生が多くであり、イベント運営も演習に含まれている。よって、DPに貢献し得る科目である。 健康課題セスポーツ企業などの募権な対金の事業と対象を関していた。公園を持ちったが、企業を持ち、である。 健康サービスに関連するイベントの企画運営を通じて、無呼応や社会課題解決を目指すことから、DPに貢献し得る科目である。
	では、しから、このでは、いいたは、ストルーンです。ファードとものは中央は、本代にしていては、は、日本のでは、こかくさも。 建設では、ストリーは、日本のでは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな
	機関機能はスパープに乗るというではなが可能ときない機能となり発によって、プイトでは、正面とリブレースがとなっ。 健康サービスに関連するイベントの企画書を参通して、男子のや社会課題所交を目指すことから、PDに貢献し得る科目である。
慶修にあたっての注意・助 言他	
私語厳禁、撲出物の期限厳守、書籍や資料の通読、授業計画は、進行状況により多少前後、変更する場合あり。	双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
	responを活用した参加型授業やORコードを読み取り、アンケートに答えてもらいながら、学生の理解を深める授業などを展開する。
	実務経験の有無及び活用
	実務経験あり:スポーツ関連企業やスポーツイベント、健康関連産業とのネットワークを活かし、ゲスト講義の依頼や現場実習(フィールドワーク)、担当者へのブレゼンテーション機会を創出する。
教科書	
24年	
	備考
参考図書	
ati.	
<u> </u>	
	1